学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白１丁目５番１号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://gakushuin-press.org/
発行・編集人　加藤絵梨香
年間500円

花岡教授 科学技術賞受賞

科学の進歩へ大きな功績

平成23年４月、文部科学大臣表彰科学技術賞の受賞者が発表された。これに、理学部生命科学科の花岡文雄教授が「ゲノム情報保持の分子機構とそれによる癌化老化抑制の研究」という業績で受賞を果たした。

昨年に続き、本学における２人目の技術賞受賞者となった花岡教授

文部科学大臣表彰科学技術賞とは、科学技術に関する研究開発、理解増進等において、顕著な業績を収めた者に授与されるものだ。花岡文雄教授は、日本薬学会という学術団体の推薦を受けたのがきっかけで、受賞に至った。

内容は「ゲノム情報保持の分子機構とそれによる癌化老化抑制の研究」についてである。遺伝子情報の源であるゲノムDNAは、生命維持のため安定に保たれる必要がある。しかし、紫外線や宇宙放射線等により、日々損傷を受けているという。この影響により遺伝情報が変化し、細胞の癌化や老化の原因となる。これに対してヒトを含む全ての生物は、DNAを修復する仕組みを、進化の過程で獲得してきた。

このメカニズムを研究する上で、教授が特に着目したのが、色素性幹皮症（XP）という遺伝病である。これは、紫外線によってDNAが損傷した際、回復機能が充分に働かず、皮膚癌を引き起こす病である。教授は、この病の原因となっている、C群XPタンパク質を中心とした修復機構を解明した。さらに、細胞のDNA損傷を乗り越える、新しいタイプの複製酵素を発見し、その分子構造をも明らかにした。これらの研究は、癌化や老化の抑制に有効な薬剤の開発に役立つと期待されている。

受賞に際して教授は「現代の生命科学分野の研究のほとんどはチームで行います。今回は、多数の共同研究者達の代表として私が受賞しました。彼らには心から感謝しています。研究という仕事は、未知の世界へ踏み出す極めて創造的な興奮に満ちたものです。その毎日は同じことの繰り返しや、試行錯誤の連続で決して楽なものではありません。簡単に諦めない強い意志と、単純なことの繰り返しを厭わない忍耐力が重要なのです。これは研究に限らず、どんな仕事にも共通することだと思います」と受賞の喜びと共に、学生へのメッセージを語った。偉業を成し遂げた教授の研究に対する姿勢は、学者に限らず若者の良き指針となるだろう。

学習院 研究最前線

学問研究の「いま」

PROFILE
東京大学法学部卒業。69年に厚生省に入省。その後、在英大使館、総務庁、自治省、環境省などに勤務。06年に環境省事務次官を退官。08年より現職の社会福祉法人「済生会」理事長。

◇　◇　◇

先生は福祉と環境について研究されています。今回はその内容と、ご自身の実践的な活動について、お話を伺いました。（取材・構成　菅家優）

「新しい福祉国家像を求めて」
法学部政治学科　炭谷 茂 特別客員教授

これまでにない働く場を

長い人生の中のテーマ

先生は幼少の頃から福祉や厚生に関心を持っていたという。そのため大学では、福祉学を学んだそうだ。

「私が学生時代を過ごした昭和40年代は、高度経済成長に伴う公害問題が深刻化した時期です。私はこの問題の解決に貢献するために、厚生省に入庁しました。公務員を引退した後も福祉に携わろうと考え、今に至ります」

貧困と人間関係

ここ数年、障害者やホームレスなど、社会から疎外される人々の数は増え、彼らの貧困が進んでいる。先生によると、この原因は社会の関係性の変化にあるという。

「以前は自営業者が多く、障害者は家族と共に働くことで生計を立てることができました。しかし近年の不況と企業競争により、自営業者は減少しています。そして現在、常により高いサービスを消費者に提供し続ける企業には障害者を雇う余裕がありません。すると、彼らは結果的に職に就けず、社会的に孤立してしまうのです」

これらの現状は、国や企業だけでは補い切れない。そのため、貧困化を防ぐ新たな福祉の在り方が必要なのだ。

先生の最大の研究テーマは、「いかにして日本にソーシャルファームを普及させていくか」である。ソーシャルファームとは、ヨーロッパで発足した形態の企業だ。この会社では、ニートやひきこもりや障害者に対して職場に就く機会を与える。そこでは、健常者も障害者も等しく働いている。そして、通常の企業と同程度のサービスや製品を提供しているのだ。

「新しい福祉課題の背景には、弱者の社会からの孤立や排除が存在しています。そのような人々には、働く場が重要だと言えるでしょう。仕事をすることで人は社会と結びつくのです。環境、福祉のニーズが増大する中で、社会を活性化するソーシャルファームの重要性は高まっているのではないでしょうか」

ソーシャルファームは、そこで働く人々に収入や幸福をもたらすだけではない。自ら社会に参加しているという責任感を与えるのだ。

実践的な活動

ソーシャルファームが具体的に着手している分野は主に環境、福祉、サービス業の三つだ。さらに大企業では行い切れない、すきま産業にも挑戦している。目的は社会福祉にあるが、事業の成立や拡大も重視しているのだ。

事業の例として挙げられるのが、自然農法に基づく野菜作りとその販売だ。先生が実際に設立に参加したソーシャルファームの一つに「NPOたんぽぽ」という会社組織がある。その会社では精神的な障害を持つ人や、ひきこもりの人々に農薬を使わない野菜作りをしてもらう。そして、採れた農作物を同社が経営するカフェ、レストランで使用したり、販売したりしているのだ。また、リサイクル事業の一環として「総合福祉センター弘済学園」に古本の販売をする企業を興した。

「ここでは、どんなに損傷がひどい本でも、できる限り綺麗にして消費者に提供をしています。これらの事業は、資源を無駄にしたり、環境を乱したりすることなく、利益を上げることが可能でしょう。こうした企業を、日本に二千社創ることが私の目標です」

今後の展望

福祉に関する先生の著書

先日の東北地方太平洋沖地震は、日本の政治や経済はもちろん、福祉にも甚大な被害をもたらした。特に、助かった高齢者や障害者は財産や知人を失い、社会的に孤立している。

「東北地方の被災者に向けての精神面、医療面、住居の対策が早急に必要です。福祉と雇用の奨励を兼ね備えたソーシャルファームの事業は、きっと対策の一角を担うことになるでしょう」

現在、先生は日本において数十社の起業および経営に成功している。先生の研究や活動は、必ずや我が国の福祉に多大な貢献をするだろう。

震災への対応 学生支援

東日本大震災がもたらした災禍の被害状況が甚大であることに鑑みて、震災復興特別給付金が創設された。これは、被害程度が学業を継続するに著しく困難と推定される学生に対して、2年間にわたり支援を行うことを目的としている。

【適用期間】平成23年4月1日～平成25年3月31日の在籍期間中

【給付対象】学習院大学生、大学院生、法科大学院生（研究生等の非正規生は対象としない）

【給付額】月額5万円　年額60万円（年額を一括銀行振り込みによる）

【給付要件】

①震災による災害救助法適用地域に、学生または保証人住所登録がある学生

②震災被害により、学生または保証人住所登録先の家屋が全壊した学生

③震災により、父または母が死亡した学生

これら三つの要件に該当する者は学生課まで申し出ること。申請した学生については、学生課にて面談が行われる。その後、事由に応じて必要な書類を準備し、審査をした上で給付の手続きが行われる。なお、授業料減免制度や各種奨学金との併用も可能だ。

次に、災害復旧のためのボランティア活動に参加を希望する学生に対して注意点がある。まず、ボランティア活動に参加するにあたって、事前に「ボランティア活動届」を学生課に提出しなければならない。その理由は、学生全員が加入している学生教育研究災害傷害保険（学研災）の補償を受けるためである。手続き上、学生が届け出て、学校が活動を認めることが必要なのだ。被災地においては思わぬ事故の発生があり得るので、提出を怠ることのないように。

また、被災地では行政機関や交通機関の機能も万全とは言えない。従って、日用品・宿泊場所・食糧・連絡手段などは自分で確保しておくことが必要となる。さらに、被災地の要望や受け入れ態勢は日々変わるので、登録先のボランティアセンター等の情報を前もって集めることも重要だ。

夏の始まりを告げる旋律

軽快な音楽と、それに聞き入る観客達。５月下旬、毎年恒例の目白音楽祭（通称・めじおん）が開催された。同祭は、昼休みに音楽系の部活・サークルがその腕前を披露する催しである。例年は輔仁会館前で行われていたが、今年は富士見会館内のホールで開かれた。多種多様なジャンルの音楽は、いずれも聴衆を楽しませ、音楽祭は盛況の内に幕を閉じた。（飯）

完全燃焼目指す 甲南戦開会式

4月23日、第56回学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦（以下、甲南戦）の開会式が、甲南大学にて開催された。甲南戦とは、神戸の甲南大学との間で、スポーツを通じて交流を深め、切磋琢磨することを目的とした競技大会である。

初めに、甲南大学の体育会本部渉外局長が開会の辞を述べ、同校の体育会本部委員長によって優勝杯が返還される。続いて、両校の学長をはじめ、甲南大学学生部長、本学の学生センター所長等が善戦を誓った。

それを受け、甲南大学体育会本部委員長と本学甲南大学戦推進局長が挨拶する。學習院大學應援團がエールを送り、院歌を斉唱した。甲南大学も学園歌を合唱し、互いを鼓舞する。その後、甲南大学の体育会本部渉外局長による閉会の辞で、開会式は幕を閉じた。

本戦におけるこれまでの戦績は学習院が2勝52敗1分けとなっており、本学の苦戦が予想されている。この現状に対し、学生センター所長は「勝負してみなければ分かりません。そのためには、全力を尽くして勝とうという意気込みが必要です。立ち上がれ！ 新学習院！」と力強く語った。

また、今回は震災の影響を受けながらの開会式となった。それについて、甲南戦推進局長は「無事に56回目の開会式を迎えることができ、大変嬉しく思っています」とコメント。さらに、本戦を通じて両校の親睦を深めたいという。「それにより、先輩方が築き上げてきた伝統に第56回のカラーを加え、今後の甲南戦に繋がる大会にしたいです」と甲南戦に向けて熱い想いを述べた。

現段階では、本学は苦戦を強いられている。それでも、最後まで諦めることなく奮闘する選手達に目が離せない。

5月より規制緩和 課外活動

東日本大震災による極めて深刻な電力不足に対応するため、18時までに制限されていた課外活動が、5月より平常通りとなった。昨今の節電対策により、一応の安定を見せている電力事情を勘案した上での変更である。

黎明会館は21時まで

その一方で、黎明会館における活動可能時間については、以前までの22時30分から21時に引き上げられることが決まった。これは、富士見会館および学内体育施設の貸し出し終了時間を踏まえた形となっている。そして、これには東京電力からの節電要請を受けての決定という側面もある。

今後、夏以降の電気使用のピークに備え、本学においても一層の節電対策が不可欠だ。節電時においても、安全管理上必要な屋外照明などの消灯はできない。そのため、学生には、課外活動の時間帯の調節や不要な照明を消すなどの節電対策が求められる。

学外で課外活動を行う時にも、注意すべきことがある。まず、合宿や遠征先の選定は慎重に行うこと。また、対外試合や発表会などの際は、余震などに備えた運営態勢をとる必要がある。その場合、観客や部員の安全を最優先に確保しなくてはならない。

以上のことを遵守することは非常に重要である。これからも各々で呼び掛け合いながら、気をつけて活動していきたい。

情報特急便

キャリアセンター
マスコミ・広告セミナー
日時：新聞業界　6月7日（火）
放送業界　14日（火）
出版業界　21日（火）
広告業界　28日（火）
18時10分～（1時間30分）
場所：西5号館202教室
備考：参加自由・無料

平成23年度学習院大学史料館特別展
明治の視覚革命！
―工部美術学校と学習院―
日時：開催中～6月11日（土）
平日12時～17時
土曜10時～17時
※日曜・祝日は閉室
場所：学習院大学史料館展示室（北2号館1階）
料金：無料

第64回学習院大学史料館講座
日本美術史　三粋人饒舌
―水墨画・琳派・浮世絵の魅力―
日時：6月4日（土）
15時～（2時間）
場所：百周年記念会館正堂
備考：参加自由・無料
講師：河合正朝氏・河野元昭氏・小林 忠氏

明窓浄机

大学は、多くの点で高校と異なる。学生のタイプが多様であることもその一つだろう。確かに、こうした特徴はメリットとして捉えることができる。様々な個性の人と交流することで新たな発見が得られるからだ。

また、自らの交友関係が広がることは純粋に楽しい▼しかし、個性の異なる友人との交流は常に上手くいくものではない。そうした「他者」との付き合いは新鮮である半面、価値観の違いに戸惑うことも多いのである。

私自身も相手との差異を意識し過ぎてしまい、そのことが交友の障害となることもあった。だが、現在そのような悩みは皆無といって良い▼「我以外皆我師」。私がもはやそのようなことに思い煩わないのは、この格言と出会ったからに他ならない。『宮本武蔵』で名を馳せた文豪、吉川英治が座右の銘としたこの金言の意味するところは深い。

あえて要約するとすれば、どのような人でも見習うべきものがある先生だ、ということになるだろう▼他者の欠点を注視してしまうのは、己に奢りがあるからではあるまいか。自分こそが正しいという不遜な気持ちが、相手の短所ばかり見せてしまうのである。そんな時は先の箴言を思い出したい。自分とは相容れないと考えていた「他者」が、尊敬の対象となる「師」として現れてくるはずである。（梅）

芳林堂書店 BOOKS HORINDO
高田馬場店 03-3208-0241
コミックプラザ 03-3984-0018
東長崎店 03-3950-1276
新井薬師前駅店 03-5345-6186
汐留店 03-3983-1828
大井町店 03-3474-4946
祐天寺店 03-3792-2561
所沢駅ビル店 04-2925-5355
航空公園駅店 04-2997-5011
イーサイト上尾店 048-779-9212
みずほ台店 049-275-2226
津田沼店 047-478-3737
関内店 045-681-0065

紙面紹介

2 大学院入試特集
学生生活を過ごす中で、大学院に進もうと思ったことはあるだろうか。今回はその入試制度の概要をお届けする。

3 献血のススメ 不足する血と知

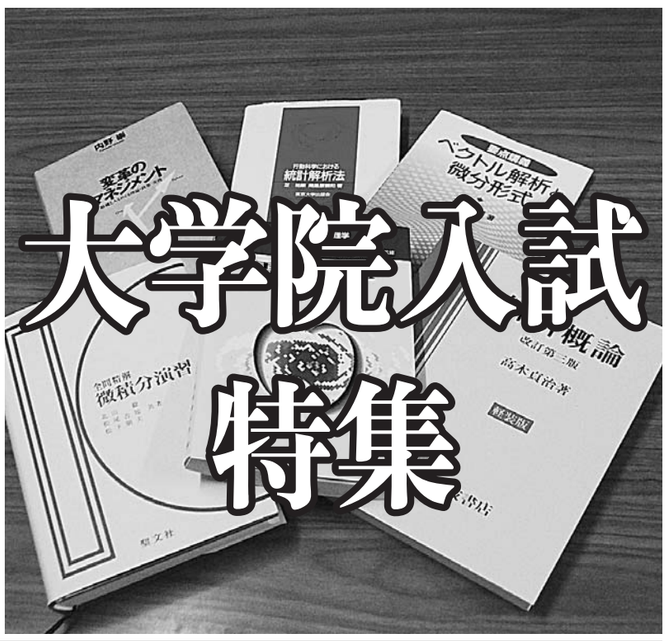
4 悔しさ残る敗戦 ハンドボール部

カトエリのためいき

新歓合宿@鎌倉。美味しいご飯に夜明けの江の島、定番の江ノ電と、大変充実していました。新入生との交流から、はぁ～もう引退かと実感。あと1号、楽しみながら頑張っていきましょう。そうですね！（猫）

空海学ノート
―学生必携レポート実践文例集―
花岡 光男
弘法大師空海の思想と背景にまつわるテーマの根幹と論点を簡潔に整理し、課題レポートの形で提示。著者が高野山大学大学院文学研究科修士課程において履修した密教学のノートをまとめたもの。
四六判ソフト　定価1575円（税込）
文藝書房
〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-1
TEL 03-3526-6568　FAX 03-3526-6576
http://www.bungeishobo.co.jp
購入は最寄りの書店またはブックサービス（TEL0120-29-9625）をご利用ください

大学院入試特集



そろそろ、主要大学の大学院入試の出願が始まる時期になった。読者の中にも、大学院への進学を考えている人もいるだろう。だが、あまり馴染みがなく、よく分からない学生も多いに違いない。そこで今回は、大学院入試について紹介する。

理解しよう受験のいろは

私達学生にとって、進路先の一つである大学院。多様な試験を突破して入学するために、必要な知識を身につけよう。

まずは、自分の希望する大学院の出願資格は何かを調べることが大切である。例えば、本学には法科大学院と法学・政治学・経済学・経営学・人文科学・自然科学の七つの研究科がある。来年の各科の受験条件は、学校教育法第83条に定める大学の卒業者、または平成24年3月31日までに卒業見込みの者だ。他にも様々な出願資格があるが、以上が学部生にとって一番満たしやすいはずだ。

それでは、入試制度について、本学を例に見ていこう。初めに注目すべきは、募集人数だ。今までの高校や大学入試とは異なり、約2名から50名程度と少人数で狭き門となっている。入試の中身は主に書類審査と筆記・面接試験の三つに分かれている。試験が実施される期間については左の図を参照していただきたい。

＜秋入試（春入試）＞

1月（7月）	5月（11月）	7月（2月）	10月
復習期間	実戦期間	入試	
過去に出題された問題で傾向を調べて、各教科の総まとめを行う	実際の試験に向けた対策を行う。募集要項を取り寄せ願書を提出		

最初の書類審査では、履歴書や最終卒業校の成績説明書、志願理由書などを期日までに提出しなければならない。他にも任意書類というものがある。優れた成績を一緒に出せば加点されて、選考時に他の受験者よりも優位に立てる。積極的に自分の能力をアピールしていこう。ただし、研究科ごとに課されている書類には違いがある。直前になって慌てることのないように、入試要項をよく調べておきたい。先ほど挙げた数々の書類の作成には、時間が掛かる場合も予想される。そのため試験日程から逆算したスケジュール管理が不可欠だ。

学力を問う筆記試験は、各大学院でそれぞれ特化した問題が出題される。それに加えて、研究科によっては英語をはじめ、外国語の受験も要することがある。これらの試験に、どう対策しようか悩ましいところだが、過去の入試問題が手に入ることをご存知だろうか。本学のアドミッションセンターには全ての専攻の、過去3年間で実施された問題が置かれている。また、そのコピーを取ることもできるので、進学希望者はぜひ活用しよう。最後に行われるのは面接だ。質問事項や体制などは研究科や面接を担当する教授によって異なるが、内容は受験科目の口述試験が中心だ。

以上、三つの成績の総合結果によって、合否の判断が下される。それが大学院側が指定する合格ラインに届いていないと、募集人数に達していなくても入学が許可されない場合がある。くれぐれも油断は禁物だ。

本学の大学院のHP上には、入試説明会などの情報も記載されているので、こまめにチェックをすると良いだろう。こうした事前の準備を怠らずに、万全の状態で試験に臨めるようにしたい。

（松江祐実）

院生から見た入試とは

ここまで大学院入試の制度を学んだが、実際はどのようなものなのだろうか。本学の大学院生約40名を対象にアンケートを行った。

初めに、進学を考えるようになったのはいつ頃なのかを聞いてみると、4年次からという回答が最も多かった。一方で高校生の頃や1年次から、という意見も目立つ。大学院への進学も視野に入れて高校や大学での勉強に励んでいたのであろう。では、入試に向けた準備を始めた時期はいつなのだろうか。この問いについては、4年次が一番多く、次に3年次であった。1年次からと答えた人は学内推薦枠の取得やFTコース選抜に向けて普段から地道に勉強を行っていたようである。

そこで、入試の対策はどのように行っていたのだろうか。具体的に尋ねると、外国語では専門用語の理解や長文読解の勉強を重点的に行った人が多数であった。専門科目では過去の入試問題を解くことや今まで学んだ内容の復習を行い、基礎を固めることが重要であるそうだ。口頭試問では文献を読み込み、自分がどのような研究をやりたいかをしっかり伝えられるように準備したという。ここで、最も大変だった試験は何だったかを尋ねたところ、口頭試問を挙げた人が多く見られた。「何を聞かれるのか不安」「自分の研究を説明することが難しい」など、教授からの質問に苦労したようである。専門科目に関しては「勉強の範囲が広い」「理解していないと答えられない」との回答があった。

ここまで見ると、入試において受験生に求められるレベルの高さがうかがえるが、そのために予備校に通った人は少数であった。予備校では英語などの授業の他、研究計画の指導を受けることもできる。また、自分の相対的な位置づけが分かることでモチベーションを上げられるという利点があるそうだ。しかし、大学受験と違い、独学で準備をする人が多いようである。

それでは、大学院での授業は実際にどのようなものなのだろうか。少人数であることや、大抵の授業が参加型であることを挙げた人が多い。「まさに『勉強』をしていると感じる」という意見もあり、講義形式の授業が多い大学との違いを感じる結果である。

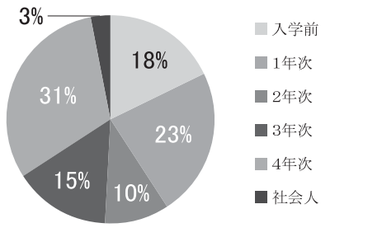
最後に、受験生へ「進学後の進路を考えた上で受験すると良い」というアドバイスがあった。また「大学以上に自己の向上心が必要だが、その分可能性を広げられる」と大学院の魅力も教えてくれた。進学するにあたり、自分の進路についてしっかりと考えた上で、目標を持つことが必要であるのだろう。

大学院進学を目指している人にとって、大学院生の意見は貴重なものだ。私自身もそのように感じた一人である。大学院入試に不安を感じても、先輩方の経験を参考に頑張ろうではないか。

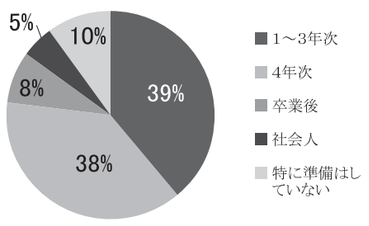
（新城亜美）

大学院生アンケート集計結果

進学を考えた時期



入学の準備を始めた時期



一日院生体験

合格への道筋を探る

大学院ではどのような授業が行われているのだろう。そこで、人文科学研究科身体表象文化学専攻の大貫敦子教授による「身体表象文化論演習　身体の表象とジェンダー」を受講してみた。

教室は机が四角く並べられ、対話しやすくされている。学生は20人弱で、講義はプリントを中心に進められるが、机上には各自が持ってきた参考文献が置かれていた。この講義は、ジェンダーについての論文を一人の学生が内容を要約して説明していく形式となっている。今回は、男性の社会における女性の存在のあり様について議論が行われた。強い連帯関係を持つ男性の集団の中では、女性は男性自身が異性愛者であることを表明するための道具にされるという学説がある。その具体的な事例は様々な分野にみられ、企業の表彰パーティーで対象社員の妻子が呼ばれる話や、漫画に登場する男女の人間関係が紹介された。教授がその他の例を挙げるように促すと、あちこちから声が上がり、積極的な発言がなされていた。提案された例に対する同意や反論が次々と行われ、議論は非常に活発である。そして時には教授が助言を挟み、解釈を訂正していく。演習という発表や議論が主となる授業ではあるが、こうして解説がつけ加えられるために、見識を広めることができるのだ。

誰もが真剣な表情だが、教室の雰囲気は和気あいあいとし、笑い声が上がる時もあった。遠慮することなく発言し、意見を交わしている。終了のチャイムが鳴っても片づけを始める様子はなく、皆じっと話に耳を傾け続けている。そして論文のまとめが述べられると、教授が総括をし、授業が締めくくられた。その後も教授と学生が会話を楽しみ、和やかな様子である。

大学院の授業は、積極的に発言することが求められるが、その分自身の考えを発展させられるものだった。大学院に入ったら怠惰は許されず、入念な予習と真剣に授業に臨む姿勢が必要になるだろう。しかし、そうした環境だからこそ、自分の研究分野をさらに専門的に学ぶにはぴったりなのである。

（久木元香織）

進学について指南する湯川氏

本学の大学院入試と現役院生の意見を垣間見たところで、実際に近年の入試事情はどうなっているのだろうか。株式会社デルタプラス代表取締役の湯川彰浩氏にお話を伺った。

初めに「10年ほど前の大学院は大学の延長線上にあり、研究者を志望する人が目指す機関でした。しかし、最近では社会人の方の入学者数も増えてきています」と湯川氏は語る。その理由として「大学院で学んだことを仕事に活かしたいという動向が表れている気がしますね。つまり、大学院の先に、専門の職業があるという構図になっています。そのため、専門職に就きたい方が進む機関になってきていると思います」と大学院のイメージ像の変化について説明してくれた。例えば、法曹界を目指す者にとって、司法試験は法科大学院課程を修了しないと基本的には受けられない。このような職業選択の関係もあり、学生だけでなく社会人の受験者も増え、総受験者数は増加傾向にあるようだ。また「夜間や土日に開講するなど、仕事と勉強の両立が可能な大学院が増えてきているので、社会人のニーズが高まっています」とも話す。今後もこの傾向は継続していきそうだ。

大学院入試と我々が経験してきた大学入試の出題内容はほとんど同じように思われるが、具体的な違いはあるのだろうか。出題について「基本的にはどの科目も専門性が高いです。英語であれば論文から引用した長文を全文和訳、要約などの優れた英語力が問われますよ」と湯川氏は語る。つまり、総合力が問われるのだ。続けて「入学後は外国語の文献を読む機会が多くなるので、その力が試されています」と氏は語る。やはり専攻に沿った内容になっているようだ。さらに「研究計画書というものがあり、面接にも使われるので非常に重要です。学生であれば、卒業論文を踏まえて今後の研究内容について書くこともあるでしょう」と教えてくれた。研究計画書とは、就職活動で使うエントリーシートのようなものだ。書き方は異なるが、面接において影響力を持つという点は同じである。

大学院は最終学歴になるため、名前の通った研究室に入りたいと誰もが思いがちだ。そこで大学院の選び方について聞いてみると、「大学院名で判断するのではなく、自分が何の研究をやりたいのかが大切です。その方向性と近い研究を行っている教員や教授のいる大学院を選びましょう」との回答を得た。先にも述べたが、大学院はより専門的な研究を行う所である。従って、希望する学問の方向性がズレてしまっては意味がないのだ。そうならないように情報収集をしっかり行い、各先生方の研究内容を事前に調べておく必要がある。

最後に、大学院入試を考えている学生に対して湯川氏は「論文や専門書を熟読し、自分の取り組みたい研究を見定めることが重要です」と話す。加えて「自発的に入試説明会に参加し、研究室の雰囲気を感じ取ってください。そして過去の入試問題を入手し、問題研究を行うことで、出題の傾向を掴むことが大切です」とメッセージを残した。

大学院受験は大学受験とは異なり、準備が遅すぎるということはない。進学を希望する全学生が有意義な修士課程を過ごせることを願っている。

（山田晃）

編集後記

一昨年、弊紙にて大学院を扱ったが、今回は「入学試験」に的を絞った特集を組んだ。実際、大学院への進学について興味はあるが、入試の情報を持っていない学生も多いのではないだろうか。私自身、入学当初から大学院を目指してきたが、具体的な対策を考えたことはなかった。

大学院は本気で対策すれば、約半年の期間で合格圏内まで学力を伸ばすことができる。以前から進学を考えていた学生にはもちろん、そうでない方々に対しても大学院は一つの進路。この号が自らの将来を見つめ直すきっかけとなることを期待する。

（山田晃）

企画　山田晃
構成　伊藤友喜
レイアウト　松江祐実
取材　大久保吉章　久木元香織　郡山陽一郎　新城亜美

記者の眼

新たな可能性を求めて

長引く不況と震災の影響で、学生を取り巻く就職環境は非常に厳しいものとなっている。その中で、来年の卒業予定者は就職活動に励んでいるが、一方で大学3年生を主とする、再来年に卒業予定の学生も早めに意識して取り組んでおく必要がある。依然として続くであろう不景気に加えて、今の就活生よりも過酷な状況に置かれるとの予測もあり、まだ先の話だとは言っていられない。

では、これから就職活動を始める学生はまず何をすれば良いのだろうか？　本学のキャリアガイダンスや就職関連の本によると、就職活動をスタートするにあたって、最初に取り掛かるべき作業は、自己分析とある。自己分析とは、己を知るために、自分とはどのような人間なのかを考える作業のことだ。分析の進め方は様々であるが、一般的に、過去・現在・未来という時間軸で自分を整理して見つめ直すという手法が取られる。今までの出来事を振り返り、己の長所や短所、性格を探って、将来のイメージを描いていくのだ。

就職活動において、その目的は第一に、仕事を選ぶ際の選択基準を持つことである。自らの強みや価値観を知ることは、やりたい仕事を見つけることに繋がるためだ。これは雇用のミスマッチを防ぐためにも必須である。第二に、エントリーシートと面接試験の対策だ。自分自身を理解しておくことで、選考の材料となるこれらに余裕を持って対応できるのである。

自分を知ることの難しさ

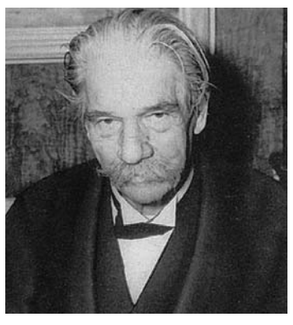
自己分析は適職を見つける上で有益であると考える。それは、実のところ、自身がどのような人間で、何がしたいのかを明確にするのは困難だということだ。まして、学生時代という短い期間にそれを見出せる者は稀であろう。探究することは良いが、突き詰め過ぎて抜け出せなくなることがないよう、自己分析を行う目的を常に心に留めておきたいものだ。

そして自分とは、絶えず変わっていく存在である。ある時点でそのような曖昧な自身を理解できたと思っても、それで適職を決めてしまうのは危険であろう。私は高校生の頃、人付き合いがあまり得意ではなかったため、人とは関わらない仕事が適職だと思っていた。しかし現在は、部活動やアルバイト等を通じて、人と接することが苦手ではなくなり、職業選択の幅が広がったのだ。このように性格や考え方は変化するものであるから、分析によって導き出された自分像やビジョンに縛られて、可能性を狭めてしまわぬように注意する必要があるのではないだろうか。

己を知るために自らと向き合うことは、この期はもちろん、生涯続けていかなければならない大切な行いである。そして、自己分析から始まる就職活動は、そのための絶好の機会を与えてくれるだろう。思うように上手くいかず、心が折れる時もあるだろうが、就職活動をただ苦痛だと捉えるのではなく、前向きな気持ちで取り組んでいきたい。

（政治学科3年　高橋弘一）

Tell Me! 偉人 シュバイツァー Lesson 12



飽くなき平和の追求

1953年、一人の医師がノーベル平和賞を受賞した。「密林の聖者」と称された、アルベルト・シュバイツァーである。彼は、医療を通してアフリカの人々に貢献し、世界平和のための啓蒙運動を行った人物だ。

シュバイツァーが自身の人生において最も重要な決断をしたのは、21歳の時だ。キリスト教の信仰に篤く、慈悲深い彼は、自分は不幸な人々に尽くすべきだ、と思い立つ。30歳になるまでは己の好きな音楽と学問に励み、その先は奉仕活動をしようと決めたのである。決意は固く、若くして大学教授やオルガン奏者などの地位を得ながらも、医療体制の不備に苦しむアフリカの人々のために医師になった。そこでの活動は過酷なものであったが懸命に働き、現地では欠かせない存在となっていく。二度の世界大戦により一時的に活動が困難になるも、彼はこうした逆境に負けることなく献身を続けた。そして、核開発の動きが活発になると、人類の健康と未来のために核廃絶を世界中の人々に向けて訴えかける。各国の意向と異なっていたために非難されたが、奇形児の誕生など核実験による悲劇も目にしてきた彼はその主張を曲げず、叫び続けた。やがて核を批判する世論が広まり、部分的核実験禁止協定が結ばれた。こうして核撤廃に向けた第一歩が踏み出されたのである。

困難な状況にも屈せず、己の信念を守り抜いた姿には感銘を受けずにいられない。自分の意思を貫き通すということは難しいもので、人生にはどうにもできない壁にぶつかる時もある。だが、彼の不屈の精神を見習い、どんな時も諦めることなく前へと進んでいきたいものだ。

（久木元香織）

秋期から「毎日学べる英会話」講座を開講します

■2011年度９月より「毎日学べる英会話」（外国人講師）がスタートします。

この講座では，講義の空き時間を利用してネイティブ講師の指導の下，学内で１日40分の英会話レッスン（50回）を受講することができます。

日常の様々な場面や旅行，留学などで役立つ表現を学びながら，英語による実践的なコミュニケーション力を養います。就職対策としても是非お勧めの講座です。

開講期間　9月26日（月）～12月12日（月）　**時　間**　9時50分～18時40分の中で40分
曜日・回数　月～金　全50回　**受講料**　学習院の学生･生徒　65,000円（予定）

【講座ガイダンス】
ガイダンスを以下のとおり実施します。興味のある方は，まずはガイダンスにご参加ください。
（全ての回，同一内容です）

日　程　6月9日（木）、14日（火）
時　間　①12時15分～　②14時40分～
③16時20分～　④17時30分～（各回40分）
場　所　学習院大学　東別館2階204教室

学習院生涯学習センター キャリアスクール
〒171-0031　豊島区目白1-3-19（目白キャンパス西11号館）
Tel:03-5992-1040　Fax:03-5992-1124　URL:http://open.gakushuin.ac.jp/

番組発表会のお知らせ

学内のみなさん、“ＧＳ”の活動をご存じですか？私たち、
学生放送局では、映像や音響を駆使して番組を製作し、
他大学の方も招いて日頃の活動で製作した番組の発表会を
行っています。この機会に、学内の皆様もお気軽にお越し下さい！
※日付やテーマは決定次第、学内にて掲示させて頂きます。

【日時】6月19日(日)　12:00ごろ開始予定
【場所】富士見会館　富士見ホール
＊飲み物・御菓子ご用意してます！途中入退出自由。

学生放送局

広げよう サポートの輪

街中でよく見掛ける献血車。身近なもののように感じられるが、その意義や、献血は病気の人々を助けるだけでなく自分自身のためにもなるということをご存知だろうか。

誰もが一度は献血を意識したことがあるだろう。だが、献血の仕組みを熟知している人は、意外と少ないのではないだろうか。その基礎知識に迫りたい。

現在の献血制度の土台が確立されたのは、1960年代である。それ以前には、金品が受け取れる売血が主流だった。しかし金銭を目的に、自分の健康状態を顧みない過度な売血を行う人が後を絶たなかった。それにより血液の質が低下し、患者の健康を害することもあり、追放運動が起こり始める。こうした状況の中、アメリカの駐日大使が輸血によって肝炎に感染する事件が起こってしまう。これらの出来事をきっかけに売血は禁止となり、献血が推奨され始める。さらに血液事業を日本赤十字が一手に引き受け、献血は全国に普及していった。こうして新しい道を歩み始めた献血のシステムは、改変を重ねながら今日に至る。

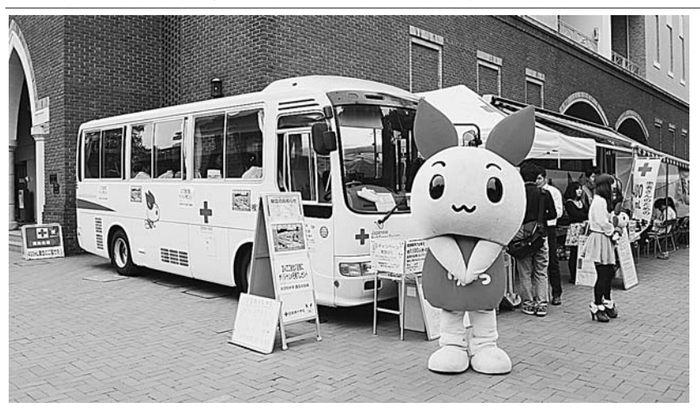
では、その現状を見てみよう。献血の方法は大きく分けて2種類だ。一つは全血献血という血液中の成分を全て採取するもので、一回の採血量は400ミリリットルと200ミリリットルがある。もう一方は、成分献血といい、血小板や血しょうを抽出する。特定の成分を多く提供できるのが特長だ。回復に時間が掛かる赤血球は取り出さないため、身体への負担を軽減できる利点がある。

続いて、安全面にも目を向けてみよう。現在の制度では、提供者と患者の健康を第一に考えた多様な制限が設けられている。そのため献血を一度すると、再度行うまで間隔を空けなければならない。全血献血をした場合は最短で8週間後、成分献血は2週間後から可能だ。その上、年間の採血回数も細かく限定されている。全血献血は400ミリリットルで男性が3回、女性は2回までが上限となっており、成分献血の場合は24回までだ。また、血液には衛生上の理由から使用期限がある。期間を過ぎたものは、残念ながら廃棄してしまう。赤血球は21日、血小板は4日、血しょうは冷凍して1年という短い間しか保存ができない。様々な地域で献血が行われているにもかかわらず、常に不足している要因はここにあるのだ。これを防ぐには、多くの人が継続して支援することが必要なのがお分かりいただけるだろう。

これほど複雑に制約がなされていると、煩わしく思う人もいるかもしれない。しかし、その心配も無用である。2006年から献血カード「愛－Ca（アイカ）」が導入された。これにより本人確認が簡潔化され、スムーズな手続きが可能になった。裏面には、次回の提供可能日や前回の履歴も表示される。私達が献血をより手軽に感じられる工夫が施されているのだ。

献血への援助は決して他人事ではない。こうして得られた血液が医療の現場で使用され、誰かを手助けできるのだ。理解を深めることが、協力への一歩に繋がるだろう。

（深澤知代）


献血キャラクターのチッチも活躍中だ

命の取り組み 各国の今

日本の献血状況については前述の通りである。ここからは海外と比較し、より広い見方を得ていきたい。

最初に、国ごとで異なる採血基準を見てみよう。年齢の制限に関し、日本は65歳以上の場合、経験者のみに限られる。対して、イギリスは医師の許可により上限を延長できる。また一回の献血量も様々だ。我が国では、最大が400ミリリットルであることはご周知の通り。だが、欧米だと500ミリリットルまで許容するケースもある。

以上より、とある点にお気づきいただけたと思う。実は、日本における基準はやや厳しく設定されている。これは献血率にも影響を及ぼす。先進11カ国を対象とした1000人当たりの年間全血献血件数の調査では、アメリカが85・6件と群を抜いてトップに。次点でドイツの53・8件、ベルギーの51・2件と欧州諸国が続く。日本は最下位の29・4件。そんな現状を解決するため、年齢の引き下げといった基準緩和が本年から始まっている。今後、どれほどの効果が発揮されるかが焦点となる。

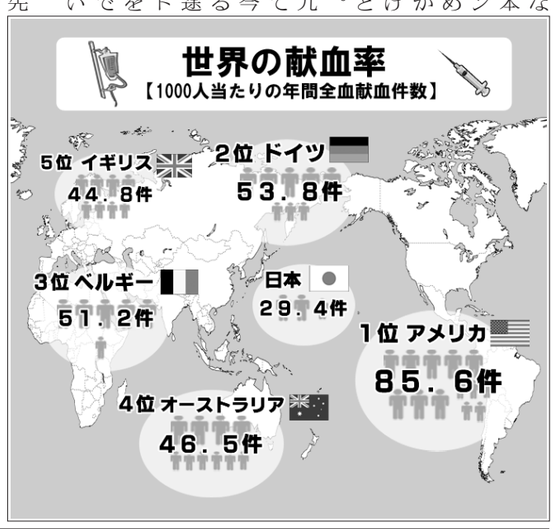
それでは、高い献血率を示す国々の血液事業は、どのように展開されているのか。アメリカは一つの組織で全てを担わず、複数の団体が独立して活動を行う。主なものとしては赤十字や地域の施設、病院が挙げられる。中でも最大規模を誇るのが「Community Blood Centers」と呼ばれる機関だ。そこに含まれるインディアナ血液センターは、全米で初めて受付時の指紋認証を導入したことで知られる。同じ氏名を持つ人々の区別が容易になり、全体において時間の短縮に成功した。効率的なシステムは、供血者の増加に一役買ったと言える。

次にアジア地域の実情として、インドネシアの事例を取り上げたい。この国は問診方法の見直しといった安全面の改善を必要としている。また、重視されるはずの感染症対策もそれほど実施されていない。そこで日本赤十字は、インドネシアを含めたアジア地域から研修生を受け入れ、講義などを行っている。平成21年度は九つの国を迎えており、制度は今後も継続される予定だ。発展途上国のサポートは、血液事業を発展させる上で重要視されていくだろう。

もちろん、先進国も課題を抱えている。献血人数確保の問題だ。副作用や注射への恐怖は、献血から足を遠のかせる原因となっている。そこで求められるのは、血液提供に対する正しい認識だろう。特に、将来的な維持について考えた時、若者に向けた教育はより重きを置かれる。日本をはじめ、広く行われているのは移動車の巡回である。注目すべきはシカゴの高校での試みだ。来車前に授業が開かれ、生徒は理解を深めた状態で臨むことができる。確かな知識の有無により、「血を抜く」行為へのイメージは大きく変わってくるに違いない。

献血への意識は、国のみならず個人でも異なる。しかし、その溝は地道な努力によって、少しずつ埋めていけるはずだ。なぜなら、命を尊ぶ心は万国共通であるからだ。

（森田祥乃）



献血 キーワードは 若者

十枚十色の小さな花園

アート日和 美術展こらむ

薔薇の切手 香りのイメージ

切手の博物館（目白）
開催期間：開催中～６月30日
開館時間：10時30分～17時
休館日：毎週月曜日
博物館ホームページ
http://yushu.or.jp/museum/

切手の博物館は目白駅より歩いて３分の場所に位置する。切手をついばむ可愛らしい小鳥の看板が目印である。毎月23日ふみの日は入館無料である他、入場料を未使用の切手で支払い可能など、郵便にちなんだ工夫が目白押しだ。

開催中の企画展では、バラの描かれた世界各国の切手、約800点を紹介している。ひとえにバラといっても、切手中の表現は多岐にわたる。絵画のモチーフとして、民族衣装の装飾として、はたまた祝福の象徴として。小さな画面に咲く姿は可憐そのものだ。その展示方法は、様々な切手の楽しみ方を提供するというコンセプトに基づく。

まずは純粋に「鑑賞」してみよう。受付を通った後、壁面へと目を向け「バラの来た道」と銘打たれた地図に注目していただきたい。バラはヒマラヤやチベット高地を原産地とし、後に中近東やヨーロッパ、アジアへ伝播したとされる。ここでは400%に拡大された図版と共に、その伝来ルートを辿っている。目を凝らし、細かな箇所まで丁寧に描かれた精巧さをじっくり味わおう。切手といって侮るなかれ、立派な芸術作品だと実感するはずだ。

次は「体験」する面白さに触れる。美しい描写も然ることながら、近年は香りを発するものまで存在するから驚きだ。本展では、インドやポーランドなどの切手が並べられ、心ゆくまで匂いを堪能できる。鼻をくすぐる甘い香りは、まるで花園に佇んでいるような気持ちにしてくれる。また、期間中に資料の入れ替えも行われているため、足を運ぶ度に新たな発見をするに違いない。

最後に出会うのは、「使う」喜び。併設のミュージアムショップでは、一部の展示品と同じ切手を購入することが可能だ。品揃えはコレクターズアイテムというよりも、気軽に楽しめるお土産が中心になっている。その図柄から各国の歴史や風俗が垣間見え、手のひらサイズの紙１枚でちょっとした旅行気分にも浸れる。お気に入りの切手で、大切な人に小さな幸せを届けてみるのはいかがだろう。

切手の可能性は無限大だ。多彩な側面に、際限のない広がりを感じる。その四角い形は、一瞬で世界を見渡せる窓のようである。

（森田祥乃）

タイ　2004年発行

ぶらっと行ってみよう

興味はあるが、なかなか行く機会のない献血。その全容を知るべく、秋葉原駅から徒歩1分の所にある「akiba:F 献血ルーム」で体験してきた。名前のFはfutureという意味で、献血事業の未来を表しているそうだ。この名称に因んで、近未来をテーマとした内装となっているのがここの特徴である。入口には大きな展示スペースがあり、マンガやアニメに関連した作品を飾っている。土地柄にマッチしており、気軽に立ち寄れる雰囲気だった。

さて、採血までの手順を紹介しよう。持ち物は保険証や運転免許証などの身分証明書だけだ。まず、受付で申し込みをし、類に氏名や住所、年齢を記入する。次にタッチパネルを使って、健康に関する簡単な診断を行う。そして個室のブースに入り、医師と対面で問診を受ける。続く血液検査では、ヘモグロビンの量や血液の濃度を測定する。

ここまでで問題がなければ、ベッドになりいよいよ献血だ。今回は400ミリリットルのコースを選択。採血針は想像よりも太く、思わず息をのんだ。しかし、テレビを見ながら受けられたので、リラックスして臨めた。刺す時はチクッと痛み、思わず目を背けてしまったが、採血中は何も感じない。10分ほどで終わり、痛みが残ることもなく安心した。採血後には気をつけたいことがある。それは水分補給と休息だ。館内の飲み物やお菓子は自由に飲食できる上、漫画も読めるので退屈しないだろう。そして、立ち眩みになる場合があるので、10分以上安静にしたい。休息後、献血カードを受け取って退館という流れだ。

このように献血は正しい手順を経ることで、安全かつ気軽に行える。後日、自宅に検査結果が郵送され、健康状態を無料で診断してくれた。社会貢献もでき、自分のメディカルチェックもしてもらえるので、一度足を運んでみてはいかがだろうか。

（川島旺洋）

多様な試みを語る石川さん

読書

愛と罪の告白

人を殺すことでしか、世界との繋がりを感じられない――。本書は、そんな歪んだ半生を告白した手記と、その読み手の受難が交錯する恋愛ミステリー小説である。

主人公の亮介は、恋人の千絵との牧歌的な幸福を謳歌していた。しかし、家族に彼女を紹介した数カ月後、その日常はもろくも崩れ去る。初めの異変は千絵の失踪だった。落ち着く間もなく、父親が末期がんで別れが近いと診断される。加えて、その時を迎える前に、母親が交通事故で命を落としてしまったのだ。心の拠り所を失った亮介は、父を見舞うために実家を訪ねる。そこで、母の「美紗子」という名前が墨書された和紙と、それに包まれた黒髪を見つける。さらにその傍らで、表紙に「ユリゴコロ」と記されたノートが眠っていた。亮介はぱんやりと手に取るが、自然と行を追うことに没頭していく。

亮介が発見したノートは、殺人に取り憑かれた人間の回想だった。眼前で絶命した同級生に刺激され、死の感触に思い焦がれる「私」。運命に導かれるまま、自らの手で凶行に及んでしまう。空腹を満たすかのように殺生を重ね、いびつな充足感を得ていくという内容だ。

父の書斎にこのような手記があることに動揺を隠せない亮介。襲い掛かる不安を払拭しようと核心に迫るが、肉親の日記ではないかという疑いは、ますます強まっていく――。

非現実で生々しい告白は不穏な空気を漂わせ、亮介だけでなく、私達読者をも惹き込む。佳境に迫るにつれ明かされる、「私」と亮介にまつわる悲運の過去。そして、二つの物語は最後に切なく交わる。物寂しくも余韻残る結末を、ぜひ目撃してほしい。

（遥）

（沼田まほかる著　双葉社　税込1470円　2011年）

企画　山森　舞
構成　福井　麻斗
レイアウト　川島　旺洋
取材　石塚　貴之
深澤　知代
森田　祥乃
山内　美樹

THE FIRST & LAST
MAC's CARROT
Founded 1973 MEJIRO
10:00~23:00
Reservation Call 03-3565-3668 090-2765-3415
http://homepage2.nifty.com/macscarrot/
KOUN BUILDING 3-16-16 MEJIRO TOSHIMA-KU TOKYO
GAKUSHUIN
TO IKEBUKURO
MEJIRO s
MEJIRO sta.
MITSUISUMITOMO BANK
MAC's CARROT

CAMPUS GUIDE

●学習院輔仁会音楽部
「目白音楽祭」
日時：6月5日（日）
開場　14時
開演　14時30分
場所：百周年記念会館正堂
料金：無料
内容：パイレーツ・オブ・カリビアンや、オラトリオ「メアイサ」よりハレルヤなど、クラシックにあまり触れない方も、聴きやすい曲目になっています。新入生の晴れの舞台です。是非お越しください!!

●写真部
「写真部6月展」
日時：6月16日（木）～18日（土）
11時～17時30分
（最終日は17時まで）
場所：輔仁会館3階
料金：無料
内容：今年度初の写真部展示会です。新入部員が入部して新しくなった写真部の展示会を、是非見に来てください。

●演劇部
6月本公演「紅鷹」
日時：6月24日（金）19時～
25日（土）14時～17時～
26日（日）14時～17時～
場所：富士見401（演劇部アトリエ）
料金：無料
内容：友達の借金を背負わされ、ピンチになった男が選んだ道は、まさかの大泥棒!?個性豊かなピチピチ1年生が加わった私たち演劇部が、皆さんを笑いあり、涙あり、スリルあり、見ごたえ大ありの世界へお連れします!!

●国劇部
「学習院国劇部公演」
日時：8月14日（日）
場所：豊島区みらい座いけぶくろ（豊島公会堂）
料金：1000円
内容：歌舞伎を現役大学生が演じます。今年は菅原伝習手習鑑の賀の祝です。

バック料金だからオーバーした場合でも安心！
普通車（免なし）／二輪車
キャッシュバック特典など実施中
藁々会売店でお申し込み下さい
普通車も自動二輪も
安心コース
検定フリー
☀段階別一括技能予約ＯＫ！
☀各技能検定料追加無料！
無料送迎バス
●JR池袋／中野方面
●沼袋／野方／井荻／新井薬師方面
●常盤台～成増方面
●江古田～富士見台／豊島園方面
●有楽町線池袋～成増
●早稲田大学・高田馬場方面
学習院大生特別料金が《お得値》!!
＊東京都公安委員会指定
実地試験免除
北豊島園自動車学校
東京都練馬区春日町4-37-24 Tel03－3990－1176

必死の追撃及ばず
アーチェリー部

無念！強豪校の壁破れず

正確に狙いを定め、好記録に結びつけた加藤選手

苦戦演じる

5月8日、立教大総合運動場にて、春季リーグ戦が開催された。相手は、関東の古豪・日本体育大であり、今大会では、両大学からそれぞれ8人が試合に出場し、上位6人の合計点で競う。試合場は50㍍と30㍍の二つの距離から6射×6エンド、全てで72射する。得点は中心に近いほど高く、真ん中は10点。1エンドで最高60点である。時間と共に押し寄せる疲労をいかに跳ね返すかが勝敗の分かれ目だ。齋木豊主将（営4）は「格上の相手に対して、私達の実力がどこまで通用するかを試したいです」と言う。

初夏を思わせる、蒸し暑い空の下、試合は始まった。まず50㍍からである。本学は肌を射す日差しのためか、はたまた相手の放つ威圧感からか、なかなか集中できず、調子を上げられない。決定的な高得点を出せず、ともすれば日本体育大が漂わせる王者の風格に屈してしまいそうになる。そんな本学選手の心を支えたのが鳥飼胆識選手（ただし・法3）だ。第3エンドには56点まで点数を引き上げてチームに貢献する一方、声高らかに仲間を励ます。その功あってか多くの選手が50点を超える好スコアを獲得するようになった。先行する相手を猛追する本学は、まず齋木主将が50㍍の合計で307点を叩き出す。すると、加藤潤選手（済4）が自己記録の306点を得る。これにより終了時には、差を縮めることに成功する。

挽回ならず

休憩を挟み、30㍍の競技が始まった。ここでは距離が近い分、一層の精度が要求される。本学は集中力を絶やさず安定したフォームで、これまでの勢いのままに的を射抜いていく。中でも、後上峻亮選手（法4）が自己記録を更新するなど腕が光る。だが、競技を終えての相手の合計点数が3818点に対し、本学は3767点で、善戦むなしく敗北を喫した。

試合後、齋木主将は「不安定だった序盤に比べ、その後はよく立て直すことができました」と成果を話す。そして、残る3戦は全勝したいとも語った。試合を通し、力を増した本学は、目標に向けて矢のごとく突き進む。（関根一馬）

Gakushuin Sports 難敵に届す
ハンドボール部

相手のマークを振り切り、的確なシュートを放つ木村主将

5月5日、東京理科大森戸記念体育館にて、春季リーグ第2戦が行われた。今回対戦したのは一橋大である。前半は本学が先制得点を挙げ、試合は順調に進むと思われたが、逆転されて7−8でハーフタイムを迎える。後半も懸命に攻め続け、一時は同点に追いついたものの、その後は好機を生かし切れず、19−23で惜敗した。

連勝を目指す

昨年の春に降格を経験したため、早々と3部に返り咲いて雪辱を果たしたい本学ハンドボール部。迎えたリーグ初戦、防衛大に25−13と快勝し、幸先良く一橋大との戦いに臨むことができた。木村智広主将（法4）は「今回の相手とは、実力が拮抗しているので簡単に勝つことはできないと思います。ですが、昇格に向けて弾みをつけるためにも、この一戦は落とせません」とこの試合に懸ける意気込みを語る。

会場は満員となり、観客が固唾をのんで見守る中、試合開始の笛が鳴り響いた。本学は相手陣内で落ち着いてパスを回し続け、隙を探っていく。そして1分と経たないうちに、木村主将が狙い澄ましたシュートを放ち、先制点を奪った。ところが、一橋大にすぐさま同点に追いつかれ、序盤から接戦となる。両校共に慎重に試合を進め、ディフェンスに重きを置いて互いに得点を許さない。しかし、時間が経つうちに、試合の流れが相手に傾く。ロングシュートを主体とした攻めに苦しみ、前半26分までに3点差をつけられてしまった。だがそこからは、GKの矢島忠英選手（仏3）を中心とした守備陣が奮起し、追加点を与えない。さらに終盤に追い上げを見せて、1点差まで詰め寄り、前半を折り返す。

一進一退の攻防

10分のハーフタイムを挟み、本学は逆転勝利を飾るべく後半に臨んだ。ロースコアであった前半とは一転、打ち合いの展開となる。立ち上がり、9−11と点差を広げられたが、木村主将を筆頭に必死の攻めを続ける。そして後半8、9分に立て続けに訪れたチャンスを生かし、ついに同点に追いついた。この流れを保ちたい本学だったが、一瞬の隙を突かれ、一橋大に勝ち越しを許す。しかしその直後、佐々木海太選手（法1）が倒れ込みながらシュートを放ち、勝利への執念を見せる。これが見事にゴールネットに突き刺さり、試合を振り出しに戻した。観客の応援を背に、今度こそ逆転すべく、幾度となく決定機を演出するも決めることができない。逆に相手の速攻から4連続ポイントを許し、差を広げられてしまう。

退場を機に…

勢いにのまれる形になった本学。ところが、スコアが14−17になった場面で、気が緩んだのか相手選手が反則を犯し、2分間の退場となる。この好機を逃すまいと攻撃陣が奮闘し、連続ゴールで1点差に詰め寄った。だが、その退場が明けると再び突き放されてしまう。それに加え、今度は本学選手が同様の判定を受け、苦境に立たされる。その結果、数的有利となった相手に2点を奪われる。逆転を目指し、残り6分間を諦めずに戦う選手達だったが、健闘及ばず19−23で敗戦を喫した。

試合後、木村主将は「一つひとつのプレーの集中力で相手の方が勝っていました。これ以上負けることは許されないので、危機感を持って練習に取り組みたいと思います」と次戦を見据えていた。スコアが示すように、相手との大きな隔たりはない。しかし、そのわずかな差を埋めなければ、リーグ戦で勝ち星を重ねることは難しいだろう。目標を部内で共有し、より激しい競争の世界へと向かっていってほしい。（飯村渉）

ロッカールーム
ダイビング部　沼田　麻衣さん（心3）

頂上を目指して

雄大で美しい海を自由に泳ぎ回ろうと、日々修練を積み重ねるダイビング部。今回は、その成果を全日本選手権で発揮し、レスキュー部門で準優勝を果たした沼田麻衣さん（心3）にお話を伺った。

彼女は高校まで水泳部に所属し、競泳の技術を磨いてきた。そして、大学に進学すると、さらなる刺激を求めてダイビング部の扉を叩いたのだという。初めに、手で水を掻かない泳ぎ方であるフリッパーを習う。これは、初心者にとって最初の壁である。だが、沼田さんは向上心を持って取り組み、見事に習得したのだった。その後の困難も、自らの積極性で乗り越えていく。そうして、初の公式戦である大学対抗の大会に参加することになった。新人種目である200㍍部門に出場すると、デビュー戦でいきなり優勝を果たす。「緊張はしましたが、気持ち良く泳ぐことができました。多くの方に見られて、かえって集中力が高められたようです。1位になれて、努力が報われた気がしました」と表彰台に上がった喜びを語る。

しかし、フリッパー部門で大活躍したにもかかわらず、沼田さんはレスキューの道を進む。「大会役員として運営に携わり、様々な種目を間近で見学しました。そこで、溺者を助ける選手の雄姿に心惹かれたのです」ときっかけを振り返る。ほとんどの選手がフリッパーで満足する一方、沼田さんはより難易度の高い競技に熱中していったのだ。

そして2年生の時には、レスキュー100㍍部門で、全日本選手権大会に臨む。社会人も出場する大舞台で、沼田さんは期待を背負って泳ぎ、準優勝に輝く。しかし、周囲のねぎらいとは裏腹に、彼女自身は満足しなかった。「優勝を目指したのですが、実力差を見せつけられました。応援してくれたチームメイトと心から喜びを分かち合いたかったです」と敗れた悔しさを語った。

次の目標は、今年の10月に行われる大会での総合優勝だという。11月に控える引退を前に、仲間と挑む最後の大会となる。有終の美を飾るべく、悔しさを糧に練習に打ち込んできた沼田さん。歓喜と挫折の両方を味わった彼女は、ダイビング部に新たな栄光を刻むことだろう。（石塚貴之）

上位校に惜敗
卓球部女子

第一試合で流れを作った小野選手

王手から一転…

5月4日、千葉大学西千葉キャンパス第一体育館において、春季関東学生4部リーグ戦が行われた。前年度5位の本学の対戦校は、同3位の千葉大である。井上まな主将（済3）は「3位以内を目標に、部員一丸となって戦います」と目標を掲げた。

第1試合は、井上主将が試合前、注目選手に挙げた小野真未子選手（法1）が出場。初めのうちは動きが硬かったが、相手に流れが行きそうなところでしっかりとタイムを取り、気持ちをリラックスさせる。フルセットの末、マッチポイントから確実にスマッシュを決め、勝利を収めた。

続く第2試合は、富堅宏美選手（英3）。序盤は相手のペースで試合が進み、苦しい戦いを強いられる。第3セットを奪取するものの、第4セットの中盤から、相手の強打の連続にデュースに持ち込まれてしまう。そこから粘りを見せるも富堅選手は敗れ、本学は同点に追いつかれた。

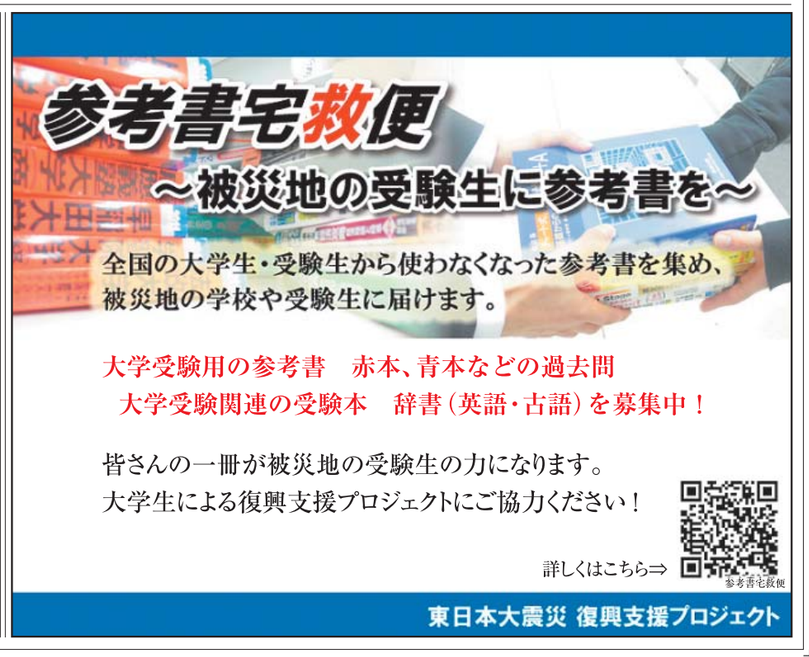
そして、第3試合のダブルスでは井上主将と小野選手が息の合ったプレーで相手を圧倒。第1セットでは小野選手が絶妙なコースにスマッシュを決め、接戦をものにする。この勢いのまま第2・3セットも試合を優位に進める。最後は長いラリーを制し、本学の勝利に王手を掛けた。

しかし、第4試合ではダブルスの疲れからか、井上主将の動きにキレがない。左右に揺さぶられ、前半は劣勢になる。その後、相手のミスから反撃しフルセットまで追い上げる。だが、力及ばず負けてしまう。本学は再び同点に追いつかれて、勝負は最終決戦へ。

第5試合の備藤理恵選手（心3）は相手の猛攻にも集中力を切らさない。チャンスが少ない中、積極的に攻めていくが、悪い流れが続く。そして、自分のペースに持ち込めず、ストレートで敗北を喫する。本学は健闘むなしく2−3で負けてしまった。

試合後、井上主将は「今後は、上位校に対しても萎縮せず強気に攻めます」と悔しさをにじませながら目標を語った。格上の千葉大相手に善戦しただけに、今後の試合も非常に楽しみである。（小柳拓真）

TOPICS
その他の試合結果
【ソフトボール部女子】▼秋季リーグ戦▽6位
【スカッシュ部】▼関東学生スカッシュ選手権大会団体戦▽男子4位　女子3位
【スキー部】▼四大戦▽男女優勝
【ソフトテニス部】▼春季首都リーグ戦▽男女共に5位
【硬式野球部】▼春季リーグ戦▽対一橋大　13−0
【アメリカンフットボール部】▼春季オープン戦▽対東京大　15−42
【ラクビー部】▼春季定期戦▽対成蹊大　10−62

デスクの片隅

1カ月後の246号の発行で、いよいよ引退を迎える。2年次からの参加だったために在籍期間は短い。だが、他の部員に劣らず様々な体験をして、貴重な思い出を残せたように思っている▼学業と二つのバイトを両立させ、加えて大学新聞社の業務をこなすのは精神的、体力的にハードだった。このまま活動を続けるか悩み、幾度も途中で挫けそうになった。それでも、仲間達の励まで、諦めずに踏ん張り続けられたのである。振り返れば、この1年間充実した日々を送り、やり遂げたことは多い▼大学新聞社での経験が、継続して努力し、困難から逃げ出さない姿勢を身につけることに繋がった。卒業論文や就職活動など、今後も乗り越えなければならない山は多々ある。しかし、ここでの活動で学んだことを生かしてこれからも私は前進していけるだろう▼今は一緒に過ごした同志達に感謝しつつ、残された時間を大切に過ごしていきたい。そして、希望を持ってこの先の試練の日々を歩んで行こうと思う。（風）